

中間報告は、終了報告よりも大切

(すべての報告は中間報告)

1. 「すべての報告は中間報告なり」

「仕事は、指示を受けて始まり、報告で終わる」というのが基本のキです。
原則です。

- 1 終了したら、即報告
- 2 指示した人に直接報告
- 3 結論から報告、経過はその後に

この基本の上に、もう一つの大切な仕事の進め方(=報連相)のコツがあります。それが「中間報告」です。デキル人は、終ってからでなく、中間で報連相しているのです。私も「仕事は、指示を受けて始まり、報告で終わる」と教わってきました。仕事が終わったのに、報告をしなければビジネスマン失格です。イメージとしては報告して一件落着、つまり「終点」のような感じでした。

たとえば(今までの報連相/旧報連相では)、「東京発、博多行き。ただ今博多駅に到着しました」というように、「終点」の感じでした。

しかし、「博多へ着いたら、そこで何をやるの?」「何かするために、博多へ行くのでしょうか」博多に着いてから、仕事は始まるのです。「何のために博多へ行くのか」という「目的」が肝心です。

目的を考えますと、報告は終点ではなく「始点か、あるいは中間点」であることがわかってきます。

「すべての報告は中間報告なり」という名言を覚えておきましょう。

中間報告は、終了報告よりも大切

(すべての報告は中間報告)

2. よい仕事の進め方(=よい報連相)は、「報告して終わり」では不十分です。

〇〇公団合理化推進委員会とか、△△審議会とかでは、「最終報告書」というものが出されます。報告書としては最終かもしれませんが、本当の仕事はそこから始まるのです。「そこから先骨抜きになるのか」、「報告内容にそった法案が成立し内容が実現するのか」… 肝心なのはそこから先のことです。まして、企業での仕事に終点はありません。

念のためですが、終了したらすぐ報告することの大切さを否定しているわけではありません。よい仕事の進め方としては、「終わりました」という報告だけでは、不十分だということです。

たとえば、「終わったから、次にこうします」、「こういう事態が起こったので、こう対処したい」という報告の仕方がイメージできます。

目的を明確にしますと、そこから先の仕事の進め方を見据えた報告になるので、報告の仕方(手段)はおのずと変わってきます。

“できる人”の報告には、「(次に〇〇するために)、こういう報告にする」という場合もあるのです。目的があつての報告(手段)です。

3. 報告、連絡、相談は、「中間で」実行することが肝心

よく、「報告と連絡と相談は、どう違うのか?」という質問を耳にします。実は、羊羹(ようかん)をナイフでスパッと切ったように、きれいに区別することはできないのです。それぞれが重なって、報告でもあり、連絡でもあり、どちらともいえる場合もあります。

相談も、なんらかの情報を伝えて相談するわけですから。相談のなかに連絡とか、報告を含む場合があります。

名前は、報告でも、連絡でも、相談でも、どのようにつけてもかまいません。要は、必要な情報を上司とか関係者へ「中間で」知らせ、情報を共有化することが一番大切だと理解してください。

「中間報告」「中間連絡」「中間相談」を実行しましょう。